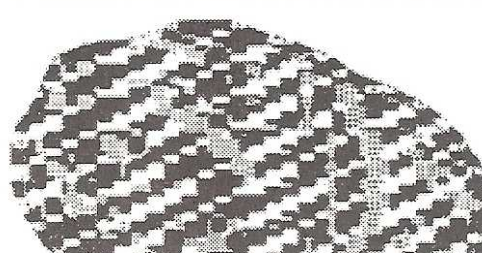


# 翔

百万石蝶会

No. 142

February 2000

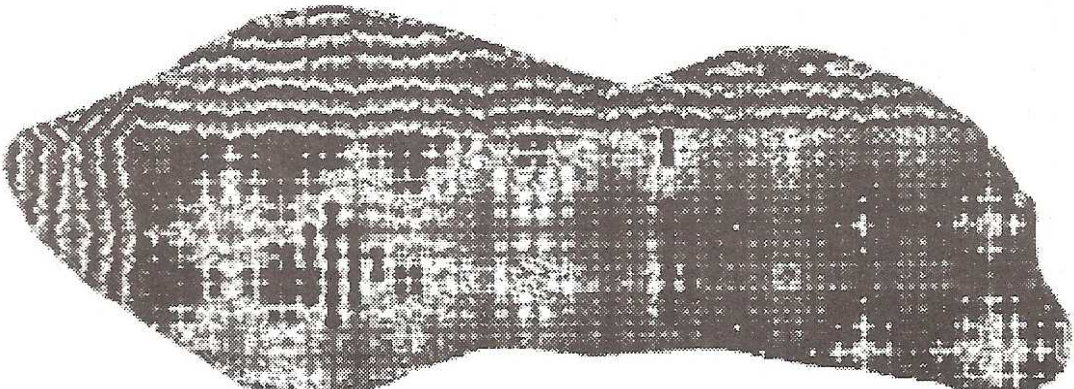


● 輪島市におけるアサギマダラの今昔

● 1999年アサギマダラ日記

● ニューヨーク市の蝶

● マツムシとクツワムシの記録



## 輪島市におけるアサギマダラの今昔

日 吉 芳 朗

## ◆アサギマダラとの出会い

級友2人とともに蝶採集をはじめたのが小学校6年生のときで、1954年のことである。その1人、広井完司君が同年8月7日、まるでナイロンを張ったような翅をもつ蝶が自宅（輪島市河井町1部）の庭の花にとまっているのを採集したと拙宅へとんできた。早速出かけて展翅板上の蝶をみたときの驚きは今でも忘れられない。こんな蝶が世の中にいるのだろうか。自分も何とか採集したいが、いったいどこを探したらよいのだろうか、いつまでも眺めていた。この蝶がアサギマダラであることは、このすぐ後に図鑑で知った。10日後の8月17日、日頃お世話になっていた里統一郎先生が、筆者を初めて高洲山（567m）頂上へ連れて行ってくださった。当時の頂上はまだ人手が入っていないすがすがしいブナ林で、木の間からもれるきらめくばかりの陽光とエゾゼミの大合唱が、忘れられない思い出として残っている。そこには神社のほかに唯一丸太4本を足場に板を渡した見晴台があったが、これは舳倉島を遠望するためのものだと先生から教えられた。その林の中にアサギマダラが乱舞していたのである。その光景は今でも目に焼きついていてはなれない。必死の思いでネットを振り回したが、多くは高い高い上空へと逃げ去り、採集したのは2♂にすぎなかったものの、まるで宝物のように家へ持ち帰った。この2頭は45年後の今なお筆者の手元にある。

## ◆高洲山の移り変わり

輪島市におけるアサギマダラの記録は、その後に知った文献（浅見行一・的場和雄，1952）によると、採集・目撃地として高洲山と当時の河原田村の2ヶ所があげられており、発生時期として7～9月とある。そして解説に「高洲山では秋に多く見られる様である」とある。この記述からみると著者自らが確認していないようにもみえる。というのも当時は交通・道路事情のため、高洲山登山は容易でなく1日がかりの仕事だったからである。

その後、頂上には自衛隊のレーダーサイトが建設され、その環境は一変してしまった。ブナ林はかなりの部分が破壊され、年に1～2度登ってもアサギマダラの姿を2～3頭もみればよいほうでたいへん残念に思っていた（日吉芳朗，1971）。ところが1984年8月15日に登頂したときには驚いた。ブナ林にはアサギマダラが乱舞しており、1♂5♀採集、15頭以上を目撃というありさまで、これだけの♀がこの地で採集されたのはその前後を通じてこのときだけである。蛇足ながら、この日、高洲山で採集・目撃した蝶の種類も32種を数え、これは輪島市の記録のほぼ半分をカバーしていた。

筆者が蝶採集活動を再開した1992年以後、高洲山での記録の中で目につくのは1996年8月10日のものである。この日はまさに1984年のあの日を思い出させるような状況で、3♂

1 ♀を採集するとともに15頭以上の個体を目撃することができた。

#### ◆新しい発見

輪島市でアサギマダラといえば高洲山以外の地は頭にうかんでこなかったのであるが、1996年9月15日に頂上の三角点さがしに鉢伏山をおとずれたところ、その北斜面に広がる草地に多数のアサギマダラが飛びまわっているのに出合った。当日、3 ♂1 ♀を採集し、10頭以上を目撃することにより、新しいアサギマダラの生息地と認識した。そして1997年7月24日、この斜面に沿う鉢伏山を取り囲む山道に足を踏み入れて瞠目した。まさに数え切れないほどのアサギマダラがヨツバヒヨドリにぶら下がり吸蜜しており、5 ♂1 ♀採集、30頭まで数えたが後は放棄してしまう体で、輪島市内にこのような地があることに驚嘆した。しかしこの山は「21世紀に残したい日本自然百選」、「森林浴の森の日本百選」に指定されていることから、観光地としての開発が危惧される。

また高洲山、鉢伏山以外の地として1998年、宝立山で1 ♂1 ♀を採集するとともに日吉南賀子が気勝山でも2頭を目撃した。また松井正人氏より舳倉島でもこれまでに8件、1 ♀採集8頭目撃の記録があることを教えられた。

1999年は、スギタニルリシジミとツマグロヒョウモンをもとめて例年より早い時期から山へ入ったためか、初夏のアサギマダラにお目にかかることができた。石川むしの会・百万石蝶談会編（1998年）をみても比較的早い記録と思われる。

|            |         |       |      |
|------------|---------|-------|------|
| 1999年5月23日 | 輪島市深見一乗 | 1 ♀採集 | 日吉芳朗 |
| 1999年5月31日 | 輪島市気勝山  | 1 ♀採集 | 日吉芳朗 |
| 1999年6月1日  | 輪島市宝立山  | 1 ♂採集 | 日吉芳朗 |

#### ◆マーキングについて

筆者はかねがね松井氏からアサギマダラのマーキングについてのお話をうかがい、大変興味を持っていた。そこで本年は自らの手でマーキングをと、日吉南賀子とともにさしあたり100頭を目標に始めることにした。1999年7月24日の宝立山を皮切りに、9月25日の宝立山を最後とする期間に117頭について行うことができた。その数を地域別にみると下表のようになる。

鉢伏山が圧倒的に多いことがわかるが、この地は7月下旬に入ると森林組合職員により、すべての下草が刈り取られてしまう。もちろん、アサギマダラお気に入りの吸蜜植物も刈り取られてしまうので、マーキングはそれまでに行わねばならない。この地での筆者らによるマーキングは、午前、午後を含めて日陰とはいえ30℃前後の比較的高い温度下で行われたもので、草刈りと気温の両方に責められた。また、石休場の1頭は集落に近い標高180mの地点で発見したもので、かなり低地であることが注目される。

| 日 付   | 宝 立 山 | 鉢 伏 山  | 高 洲 山 | 石 休 場 |
|-------|-------|--------|-------|-------|
| 7月24日 | 3♂1♀  |        |       |       |
| 7月25日 |       | 19♂4♀  |       |       |
| 7月26日 |       | 23♂6♀  |       |       |
| 7月27日 | 3♂    |        |       |       |
| 7月30日 |       | 32♂2♀  |       |       |
| 7月31日 |       | 5♂4♀   |       |       |
| 8月10日 |       | 4♂     |       |       |
| 9月10日 |       |        | 1♂    |       |
| 9月11日 | 2♂1♀  |        |       |       |
| 9月13日 |       | 1♂     |       |       |
| 9月19日 |       |        | 2♂    |       |
| 9月19日 |       |        |       | 1♀    |
| 9月25日 | 3♂    |        |       |       |
| 総 計   | 11♂2♀ | 84♂16♀ | 3♂    | 1♀    |

アサギマダラは、季節にしたがって日本列島を大きく移動している。輪島市へは何処から飛んできて何処へ飛んでいくのかを調べるのがマーキングの目的で、捕まえた蝶の羽に油性のサインペンで印を付け、再び放している。捕まえた蝶に、印が付いていたことはまだ無いが、自分が印を付けた蝶が何処かで再捕獲されないかと待つのは、夢があつてなかなか楽しいものである。これまでのところ再捕獲されたとの報を得ていないが、松井氏は700頭を越える蝶にマーキングをしておられてなお再捕獲が数頭であることを考えると、確率的にみてもこれは当然の結果であろう。しかし筆者らにとって、明年以後の楽しみが一つ増えて喜んでいる。

#### 《参考文献》

浅見行一・的場和雄（1952）石川県旧鳳至郡の蝶類について：8, 13. 輪島高等学校。

日吉芳朗（1971）高洲山の蝶．とっくりばち（19・20）：4.

石川むしの会・百万石蝶談会編（1998）アサギマダラ. 石川県の昆虫：356. 石川県。

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

## 1999年アサギマダラ日記

松井正人

## ◆ 5月30日 晴 白山地方で卵発見

今年は、春からセミ調査に明け暮れている。この日はエゾハルゼミの調査と兼ねてアサギマダラの調査を行った。白山釈迦林道では、0.5m未満のイケマを6本発見したが、卵は発見できず。三又発電所では、オオカモメヅルから1卵を発見。尾口村一里野では0.5m未満のオオカモメヅルを何本か発見したが、葉が完全に開いていず、卵も無し。

アサギマダラの成虫は、今年になってまだ観察していないが、各地から「観察」の情報が入っており、三又発電所での1卵もあり、県内に多数飛来している事が予想される。

1999年5月30日 石川郡尾口村三又発電所 1卵目撃 松井正人

## ◆ 6月5日 くもり 平地で初の卵発見

富沢 章氏から、5月21日に加賀市錦城山の薄暗い林内で、1♀採集したとの話を聞いていたので、産卵している可能性があり確認に行く。アサギマダラの卵や幼虫は、これまで標高400m以上の地から観察されており、平地からの観察例は無い。錦城山の標高は20~70m、城址公園になっていて遊歩道が整備されている。なかなか食草が見つからず、鐘ケ丸でオオカモメヅル1株を発見したが卵は無し。全山探し、最後の最後に本丸で数株のオオカモメヅルを見付け、1株から2卵を発見する。

1999年6月5日 加賀市錦城山 2卵採集 松井正人

## ◆ 6月12日 晴 標高1250mで卵発見

白山方面で2度目の調査。続々飛来しているようで、卵調査しながらも3頭の成虫を目撃。白山釈迦林道では5月30日に見付けたイケマから卵を発見したが、ここの標高は1250m。途中谷と三又発電所ではオオカモメヅルから卵を発見。一里野のオオカモメヅルは成長していたが、卵は発見できず。

|            |              |              |      |
|------------|--------------|--------------|------|
| 1999年6月12日 | 石川郡白峰村百万貫岩   | 1頭目撃         | 松井正人 |
| 1999年6月12日 | 石川郡白峰村白山釈迦林道 | 2卵採集 1頭 2卵目撃 | 松井正人 |
| 1999年6月12日 | 石川郡白峰村下田原    | 1頭目撃         | 松井正人 |
| 1999年6月12日 | 石川郡吉野谷村途中谷   | 4卵目撃         | 松井正人 |
| 1999年6月12日 | 石川郡尾口村三又発電所  | 3卵目撃         | 松井正人 |

## ◆ 6月13日 晴 奥能登地方で初調査

かなり県内に飛来しているようなので、能登地方の調査に出かける。輪島市と珠洲市の境にある宝立山には、毎年卵や幼虫が付いているオオカモメヅルがあるが、まだ産卵され

ていなかった。輪島市と柳田村の境には鉢伏山があり、夏になるとおびただしい数の成虫が観察できる。ここにイケマの大株があるが卵、幼虫ともに観察できなかった。まだ、奥能登地方には飛来していないのだろうか。

◆ 6月26日 晴 白山地方で幼虫観察

三又発電所と一里野でオオカモメヅルから幼虫を観察。三又発電所の幼虫は、13mmで4齢幼虫のような感じ、体をC字状に曲げ、体長を計るのに苦労した。一里野の幼虫は、6mmと7mmだったが、太さと4本の突起の長さが違うので2齢と3齢だろうか。

1999年6月26日 石川郡尾口村三又発電所 1幼3卵目撃 松井正人

1999年6月26日 石川郡尾口村一里野 2幼目撃 松井正人

◆ 7月17・20・23日 くもり 鉢伏山でマーキング

7月4日、鉢伏山のマーキングポイントにヨツバヒヨドリがたくさん咲いていたが、アサギマダラはいなかった。

7月17日、ついにアサギマダラを発見。古い個体が多い。ところが、今日から草刈りが始まり、マーキングポイントのヨツバヒヨドリは、あと1週間程で刈り取られてしまうことが予想され、マーキングは急を要する。

7月20日、金沢は大雨だったが、近づくにつれ雨が止み、路面が乾いてきた。とにかく蒸し暑く、汗びっしょりになる。汗が顎からしたたり落ちてくるが、拭う暇さえ惜しい。

7月23日、今日は大風。強風注意報が出ている。20日に比べてアサギマダラの数が少ないのは、このせいだろうか。更に12時半～15時にかけては、いなくなってしまった。これは、気温が26度を越えた時と一致するので、暑すぎてどこかに止まっているのだろうか。

1999年7月17日 輪島市鉢伏山 22♂13♀マーキング 松井正人

1999年7月20日 輪島市鉢伏山 125♂54♀マーキング 松井正人

1999年7月23日 輪島市鉢伏山 72♂18♀マーキング 松井正人

◆ 8月8日 晴 宝立山で終齢幼虫を観察

陽当たりにいるとクラクラするほど暑い。朝からうるさく鳴いていたエゾゼミも、暑さの盛りには鳴かなくなった。毎年、幼虫が観察できるオオカモメヅル、7月7日の調査時には卵、幼虫とも観察できなかったが、今日は2cm程に成長した終齢幼虫1頭を観察。

1999年8月8日 輪島市宝立山 1幼目撃 松井正人

◆ 9月前半 宝達山のマーキングは低調

9月5日、晴。宝達山のアサギマダラは極わずか。吸蜜に訪れるアザミも蕾ばかり。5時間半で9頭しか観察できない。

9月8日、晴。やはりアサギマダラは少ない。古い個体ばかりで、まだ移動は始まっていないようだ。

9月11日、晴。風強くアサギマダラはブナ林の中にしかいない。新鮮な個体の率が高くなり、移動本隊の到着は間近のようだ。

9月12日、くもり。宝達山はスッポリ雲をかぶっている。9時半にピークに着いたが、全くガスの中で前が見えない。次第にガスが消え、10時半になってやっと陽が当たりだしたが、アサギマダラはほとんど飛ばない。

9月18日、くもり。今年は天気に恵まれず、宝達山は雲の中。10時50分にガスが消え、青空が顔を出すのが気温が低い。12時半にやっと気温が20度になるが、アサギマダラは全く見られない。

|             |           |             |      |
|-------------|-----------|-------------|------|
| 1999年 9月 5日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 5♂ 4♀ マーキング | 松井正人 |
| 1999年 9月 8日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 2♂ 1♀ マーキング | 松井正人 |
| 1999年 9月11日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 5♂ 2♀ マーキング | 松井正人 |
| 1999年 9月12日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 2♂ 1♀ マーキング | 松井正人 |

#### ◆ 9月後半 宝達山のマーキング、一時は好調

9月19日、晴。京都から藤井 恒さんがマーキングに駆けつけた。昨日までの事があり、「せっかく来てもらっても」と思っていたが、今日はポツポツ飛来する。波があるようで、いくつも飛んだり全く飛ばなかったりする。最後の波は、15時10分頃。交尾飛翔を14時20分頃に観察する。藤井さんによれば、♂が♀を下げて飛んでいたようだ。藤井さんは、後翅の紋が融合した異常型を採集。たくさんのアサギマダラを見ているが、こんな異常型は初めて見た。

9月23日、くもり。今日のマーキングも好調。14時半頃、河崎悦子さんが、友人とともにやってきた。興味を持ったらしく、自分のマークを書いてほしいと頼まれたが、「自分でやりましょう」との話になり、タオル回しも採集も試してみる。アサギマダラは回すタオルに寄ってくるものの、ネットに入れるのが難しいようだった。今日は15時10分頃、河崎さんが交尾飛翔を発見した。♀が♂を下げて飛び、地上10m程の枝先にまず♀が止まり、しばらくして♂も枝先に足をかけ、2頭で枝にぶら下がった。15時50分には、更に1ペアを発見。15時10分のペアはそのままなので、同時に2ペアを観察する。

9月25日、くもり。前日台風18号が能登沖を通過し、夜通し大風が吹いていたせいか、今日のアサギマダラは少ない。13時頃、日吉宏朗君がネットを持ってやってきたが、アサギマダラが少なく、少々残念。タオル回しを披露したところ、吸い寄せられる姿に宏朗君は絶賛。14時頃に飛来したアサギマダラには、宏朗君がタオルを回し、初マーキング。それにしても、宏朗君が来てからたった3頭しか飛来しなかった。

9月26日、晴。9時に宝達山に着くと、藤井さん親子が到着していた。京都を4時半に

出発したらしい。せっかく来てもらったのに気温が19度以上に上がらず、アサギマダラはほとんど飛ばない。藤井さん親子は、12時半に福井県木の芽峠へ転戦。14時半に河崎さん姉妹もやってきたが、惜しいかなアサギマダラは全くいない。ブナ林の方を回ってくると歩いていったが、林内は林外より気温が1度低く、可能性は無い。ところが、しばらくして「3頭見た」との話にビックリ仰天。こっちは6時間で2～3頭しか見ていない。

9月28日 晴。25、26日とアサギマダラほとんどいなかったの、移動は終わったのかと思っていたら、宏朗君が「27日午後から86頭にマークした」と連絡してきた。まだいけると、午後から休暇を取り、13時からマーキングを始めるが、しばらくして曇りだし、とたんに飛ばなくなる。宏朗君もやってきて、2人で手が痛くなるまでタオルを回す。今日は、交尾飛翔を2回目撃し、16時には、狭い場所で枝先にぶら下がる4ペアを観察した。

|            |           |              |         |
|------------|-----------|--------------|---------|
| 1999年9月19日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 63♂18♀マーキング  | 松井正人    |
| 1999年9月19日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 90頭マーキング     | 藤井 恒    |
| 1999年9月23日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 97♂11♀マーキング  | 松井正人    |
| 1999年9月23日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 4 ♂マーキング     | 河崎悦子    |
| 1999年9月25日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 3 ♂ 5 ♀マーキング | 松井正人    |
| 1999年9月25日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 1 ♂マーキング     | 日吉宏朗    |
| 1999年9月26日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 1 ♂マーキング     | 松井正人    |
| 1999年9月26日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 6 頭マーキング     | 藤井 恒・大樹 |
| 1999年9月28日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 65♂1 ♀マーキング  | 松井正人    |
| 1999年9月28日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 30♂3 ♀マーキング  | 日吉宏朗    |

#### ◆10月2日 晴 宝達山で最後のマーキング

10月になってからのアサギマダラの観察例は少なく、マーキングした事は一度もない。今年は気温が下がらず、マーキングの可能性は十分ある。8時20分、快晴で気温は既に21度と暖かいが、風が強く枯葉が舞い、夏と秋が交じり合ったような日だ。アサギマダラは居るものの止まっているものが多い。飛ばせてネットしていたが、10時頃から飛ぶようになった。その頃、宏朗君も友達を連れてやってきたので、手分けしてマーキング。この日が最後のマーキングになったようで、10月10日は良い天気だったにもかかわらず、全く観察できなかった。宏朗君も6日と9日にマーキングに出かけているが、気温が低く、それぞれ1頭を目撃しただけとか。

|            |           |              |      |
|------------|-----------|--------------|------|
| 1999年10月2日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 55♂33♀マーキング  | 松井正人 |
| 1999年10月2日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 16♂4 ♀マーキング  | 日吉宏朗 |
| 1999年10月2日 | 羽咋郡押水町宝達山 | 5 ♂ 2 ♀マーキング | 吉田弥生 |

## ◆10月・11月 再捕獲の知らせ

10月20日、「アサギマダラを調べる会」の大島新一郎さんから電話をいただいた。いきなり「おめでとうございます」から始まった。宝達山でマーキングしたアサギマダラが、大阪府富田林市で再捕獲され、大島さんのところに連絡が入り、直ぐこちらに連絡をいただいたものだった。再捕獲者は脇坂豊子さんで、庭のフジバカマで吸蜜していたらしい。大島さんの計らいで、生きたまま手元に届けられ、「石まつい586」を確認。お世話になった脇坂豊子さん、大島新一郎さん、どうもありがとうございました。

「石まつい586」♂ 9月28日 羽咋郡押水町宝達山でマーキング

↓

10月20日 大阪府富田林市梅の里で再捕獲

10月23日、asagiメーリングリストで、金沢 至さんから再捕獲の連絡が入った。今年2例目であり、超ラッキー。宝達山でマーキングしたアサギマダラが、三重県南牟婁郡御浜町で再捕獲され、「アサギマダラを調べる会」に連絡が入ったものだった。再捕獲者は多田弘一さんで、飛翔中だったらしい。多田弘一さん、金沢 至さん、どうもありがとうございました。それにしても富田林市の個体が「586」、今回の個体が「588」、マークの時間差わずかに4分。こんな事もあるものかと驚いた。

「石まつい588」♂ 9月28日 羽咋郡押水町宝達山でマーキング

↓

10月21日 三重県南牟婁郡御浜町神木立札幌で再捕獲

11月9日、藤井 恒さんからEメールをいただいた。なんと神奈川県で鉢伏山の個体が写真撮影されたらしい。群馬県赤城自然園の金子順一郎さんからは、写真を送っていただいた。撮影された藤沢圭三さんは同時に2頭のマーク虫を発見し、1頭が鉢伏山でもう1頭が赤城自然園でマークされたものらしい。写真撮影された藤沢圭三さん、連絡いただいた藤井 恒さん、写真を送っていただいた金子順一郎さん、どうもありがとうございました。

今年3本目の当たりくじ、こんな事があっていいのだろうか。しかも輪島の夏個体。輪島も初なら、夏個体も初記録。輪島から一度北上したものが南下し、太平洋側に出たのだらうと思われるが、三方を海に囲まれた能登半島の先端から、どのようなルートで北上したのだろうか。海を渡ったのだろうか。

「石まつい300」♂ 7月23日 輪島市鉢伏山でマーキング

↓

10月12日 神奈川県秦野市ヤビツ峠で写真撮影

## ニューヨーク市の蝶

久 慈 一 英

何かと忙しいうちに気がつくとも7月のニューヨークに来てしまった。7月は、蝶のベストシーズンである。まず辺りの公園を探索してみることにした。今年のニューヨークは異常気象で猛暑と雨がほとんど降らない7月であった。危ないと言われているマンハッタンであるが、空前の好景気のため日中歩く分には大丈夫であるとわかってきた。まず、セントラルパークなど歩き回ってみるが、蝶は少なく人が多すぎて蝶採集には不向きであった。ハドソン川沿いの Riverside Park はやや人が少なく、モンシロチョウやアメリカのアカタテハ(*Vanessa atalanta*)、オレンジのモンキチョウ(*Colias eurytheme*)など初採集する事が出来た。しかし、蝶採りに適当な人目のつきにくいところで、突然木の陰から乞食が出てきた時には本当にびっくりした。人目の少ない木陰は、彼らの絶好の避暑地なのである。慣れるまでは少し恐ろしいものがある。だが、乞食の危険性は低い。

マンハッタンの公園では限界を感じたので、次は地下鉄で足を延ばしてみた。地下鉄は市営なので市外には出られない。北部へ延びる地下鉄で、終点が公園になっているところへ行ってみた。これらの地下鉄は、ブロンクス地区というちょっと危険な地域で終わっている。初めて行ったときに、運悪く乞食が物乞いで同じ車両に乗っていたので、気味が悪くて途中で降りてしまった。それでも、休日の昼間は全く安全だと言うことがわかった。ブロンクス北部の Van Cortlandt Park というところは、緑が比較的良好に残っていて良い採集地と言うことがわかった。アシの茂る小さな湿地があり、そのまわりに草原が少し残っており、花が沢山咲いている。ここに、実に様々な蝶が集まってくる。普通種ばかりであるが、とにかく蝶の数はやたらと多い。今シーズンは、ここを中心に通ってみた。大小のセセリが飛び回り、モンシロチョウが乱舞している。ときおりオレンジのモンキチョウ *C. eurytheme* が勢い良く飛び回っている。モンキチョウにはもう一種類黄色の *Colias philodice* がいて、混生してよく雑種がでるという。ここで採れた *C. philodice* は雑種のように、黄色とオレンジの割合にいろいろな変化があった。オオカバマダラ (*Danaus plexippus*) やキアゲハの仲間 *Papilio troilus* や *Papilio glaucus* が時々現れる。青黒いジャコウアゲハの仲間の *Battus philenor* というのがおり、鳥にはまずい蝶である。アゲハ類が皆これに擬態しており、タテハでも擬態しているものがある。大型のヒョウモンチョウ (*Speyeria cybele*) も一頭のみ採れ、アメリカのヒメアカタテハ (*Vanessa virginiensis*) もいた。シジミ類は何故か少なく、ツバメシジミの一種 *Everes comyntas* と尾状突起の長い茶色のシジミ *Strymon melinus* 位しか採れない。ルリシジミの仲間も数が少ない。当地にはヤマトシジミに相当するような、どこにでもいるシジミというのがいないのが不思議である。

これらの公園にはヒカゲ、ジャノメ類も何故かいない。普通種とは言っても皆私にとっ

ては新種なので、沢山採っているうちにすぐに三角紙が足りなくなってしまう。この夏はやたらと暑いので、手持ちのコーラ1リットルボトルがなくなると、これで終了となる。7月の日没は8時頃なので、日が暮れるまでやっているとても体はもたない。その他に、近くの Pelham Bay Park という公園もなかなか良い場所で、海岸のような環境に、南方系の蝶が多かった。*Papilio polyxenes* は、こちらで採れた。

これらの公園では草原の蝶がメインのようであり、セセリチョウが多種生息していて普通種だけで十種類以上いる。ミヤマセセリやキマダラセセリの仲間が多く、結構派手な色調のものもいて、結構おもしろい。後翅裏面に銀色の大きな班が目立つ大型のセセリ *Epargyreus clarus* は、花蜂の一種に擬態していて結構紛らわしい。一方で、日本に多い焦げ茶のセセリがあまりいないのが不思議である。

ただ、驚いたのは、セセリチョウのように小さくて激しく飛び回る蝶のなかに、ヒョウモンモドキの仲間 *Phyciodes tharos* がいたことである。私も初日は存在に気付かなかった。目が悪いとこの蝶に気づかずに終わってしまうであろう。森林よりも日本では蝶がいないような荒れた草原に、結構いろいろな蝶が生息している様である。この辺は大陸の蝶らしい。チャマダラセセリの一種 *Pyrgus communis* も採れた。

さすがに、このあたりでは森林性の蝶は少ないようで、少し変わった蝶を得るには自動車が必要である。しかし、今年のシーズンはこれで終わってしまった。来たるミレニアムシーズンに期待するしかない。ポイントも情報が全くない手探りの状態である。

ニューヨーク州周辺は、イギリス人が植民してきた頃は原生林で覆われていたらしいが、農地化によってそのほとんどが一旦切り開かれてしまったという。現在では全州に約40%もの森林が再生したが、州立公園の森林など一部を除けば、森林化による人工的な森であり、本来の植生とは異なるらしい。固有種がほとんどいないのは、このためかもしれない。

参考までに今年採れた蝶のデータを挙げておく。ニューヨークに来たときは、立ち寄られるとよい。

1999年7月11日 Riverside Park, Manhattan, New York

*Colias eurytheme* 1♂、*Pholisora catullus* 1♂、*Vanessa atalanta* 1♂

1999年7月18日 Van Cortlandt Park, Bronx, New York

*Papilio troilus* 3♂、*Papilio glaucus* 2♂4♀、*Pieris rapae* 5♂、  
*Colias eurytheme* 3♂、*Everes comyntas* 1♀、*Speyeria cybele* 1♂、  
*Vanessa virginiensis* 1♂、*Danaus plexippus* 2♂、*Epargyreus clarus* 8exs、  
*Poanes viator* 8♂2♀

1999年7月24日 Van Cortlandt Park, Bronx, New York

*Battus philenor* 1♂1♀、*Papilio troilus* 5♂1♀、*Papilio glaucus* 11exs、  
*Colias eurytheme* 2♀、*Strymon melinus* 1♂、*Everes comyntas* 1♀、

*Phyciodes tharos* 1♂1♀、*Vanessa virginiensis* 1♀、*Danaus plexippus* 19exs、  
*Epargyreus clarus* 2♂1♀、*Erynnis horatius* 1♂、*Polites peckius* 3♂、  
*Poanes zabulon* 1♂、*Poanes viator* 7♂2♀

1999年7月25日 Pelham Bay Park, Bronx, New York

*Papilio polyxenes* 1♂1♀、*Papilio troilus* 1♂1♀、*Papilio glaucus* 2♂1♀、  
*Colias eurytheme* 3♂1♀、*Celastrina neglecta* 1♀、*Everes comyntas* 1♂、  
*Phyciodes tharos* 2♂14♀、*Vanessa virginiensis* 1♂、*Danaus plexippus* 4exs、  
*Poanes viator* 1♂

1999年8月29日 Van Cortlandt Park, Bronx, New York

*Battus philenor* 1♀、*Colias philodice* 7♂5♀、*Colias eurytheme* 3♂1♀、  
*Phyciodes tharos* 3♂♀、*Vanessa virginiensis* 1♀、*Danaus plexippus* 2exs、  
*Epargyreus clarus* 1♀、*Euphyes vestris* 1♀、*Ancyloxypha numitor* 1♂、  
*Hylephila phyleus* 11♂1♀

1999年9月12日 Van Cortlandt Park, Bronx, New York

*Colias philodice* 1♂2♀、*Colias eurytheme* 1♂、*Strymon melinus* 1♂、  
*Everes comyntas* 1♂、*Phyciodes tharos* 2♂、*Danaus plexippus* 1♀、  
*Epargyreus clarus* 1♂、*Pyrgus communis* 1♂、*Hylephila phyleus* 7♂1♀、  
*Atalopedes campestris* 9♂2♀、*Polites peckius* 1♂、*Poanes zabulon* 1♀

1999年9月19日 Pelham Bay Park, Bronx, New York

*Colias eurytheme* 2♂3♀、*Eurema lisa* 1♀、*Danaus plexippus* 4♂6♀、  
*Everes comyntas* 1♂、*Atalopedes campestris* 1♀、*Polites peckius* 1♂

1999年9月19日 Woodlawn, Bronx, New York

*Battus philenor* 1♂、*Danaus plexippus* 1♂、*Atalopedes campestris* 1♂

1999年9月26日 Van Cortlandt Park, Bronx, New York

*Danaus plexippus* 4exs、*Atalopedes campestris* 1♂

1999年10月10日 Pelham Bay Park, Bronx, New York

*Danaus plexippus* 5exs、*Colias eurytheme* 1♂

#### 《参考文献》

Jeffrey Glassberg(1999) Butterflies through binoculars The East.

James A.Scott(1986) The Butterflies of North America.

《くじ いちえい 10 River Road, #4P, New York, NY 10044, USA》

## マツムシとクツワムシの記録

富 沢 章

1998年と1999年は、手取川のミヤマシジミ調査に延べ9日間費やしたが、コマツナギはかなり残っているにもかかわらず、本種はまったく見られなかった。しかし、ハラビロトンボやアオモンギンセダカモクメのように、石川県未記録の予期せぬ虫が発見できた楽しみがあった。

県内では減少の著しいクツワムシとマツムシもそういった種類で、これら両種は手取川河川敷に生息していることが明らかになった。ここでは両種の採集記録を報告する。

クツワムシ 1999年9月5日 1♂1♀ 石川郡美川町南(手取川河川敷) 富沢 章採集  
 クツワムシ 1999年9月11日 4♂ 金沢市旭(浅野川河川敷) 南 大輔採集  
 マツムシ 1999年9月5日 1♂ 石川郡美川町南(手取川河川敷) 富沢 章採集

クツワムシのメスは、アオモンギンセダカモクメを得ようと設置した灯火に飛来したものであり、オスは近くのクズの葉上で鳴いていたものである。本種は河川敷沿いに約50m間隔で鳴き声が聞かれ、個体数はそんなに多くはないようである。一方、マツムシは河川敷の草むらでたくさん鳴いており、個体数は多いようである。

なお、浅野川河川敷でも上記のとおりクツワムシが得られた。採集した昆虫館勤務の南大輔氏によると一ヶ所にかかなりの個体が生息していたようである。

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

## 1999年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

| 収 入       |         | 支 出       |         |
|-----------|---------|-----------|---------|
| 項 目       | 金額 (円)  | 項 目       | 金額 (円)  |
| 1999年度会費  | 90,000  | 会 誌 作 成 費 | 111,600 |
| 当該年度以外会費  | 22,000  | 例 会 費     | 16,000  |
| 会 誌 売 上 金 | 12,430  | 博物館を作る会会費 | 3,000   |
| 郵 送 負 担 金 | 17,500  | 郵 送 費     | 31,870  |
| 寄 付 金     | 21,960  | 消 耗 品 費   | 3,470   |
| 前年度繰越金    | 34,694  | 次年度繰越金    | 32,644  |
| 計         | 198,584 | 計         | 198,584 |

## 十二月三十一日高洲山で採卵

前日、松井氏と倉ヶ岳で採卵していた宏朗氏、三十一日は親子で高洲山。こつちも雪があつて上部へは行けず、ふもとで調査。

## アサギと過ぐすカウントダウン

一九〇〇年代最後の年越しとあつて、各地でにぎやかなカウントダウンが行われたが、輪島の日吉氏宅では、十一月に羽化したアサギマダラがすこぶる元気で、ミレニアムカウントダウンを共に過ごした。

## 一九〇〇年代で三番目の気温

気象庁によると、一九九九年の日本の年平均気温が平年より一度程高かつたらしい。これは一九〇〇年代で三番目で、一番高かつたのは一九九八年、二番は一九九〇年と、いずれもつい最近記録されている。

## 小幡カメラマン、復活宣言

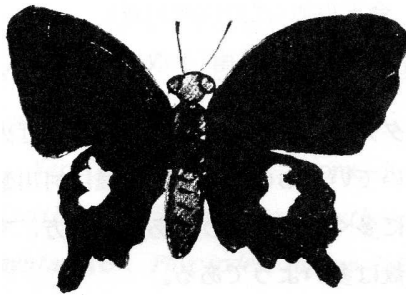
数々の雑誌から掲載を依頼される氏だが、ここどころ

本業が超多忙で、ロットで

買ったフィルムも使用せぬまま期限が切れていた。依頼写真も撮り置きでしのいできたが、最近はまだならない状況に陥り、今年からフィード通いを決意するのだつた。

## 圭ちゃんコーナー パート2

蝶談会随一の若さを誇る坂原圭ちゃんが、またまた送ってくれました。今年は黒が魅力のモンキアゲハ。



## 輪島でガンバル日吉親子

二〇〇〇年になって良い天氣が続き、クリスマス前の大雪もほとんど消え、能登の山

は車でピークまで上がれるようになった。足止めを食ら

ていた日吉親子は早速動き出し、鉢伏山でミズナラの頂芽からゼフ卵を採集。

## 疲労こんぱいの西原氏

ボケットベルにつながれて昼夜を問わず激務に就いている西原氏、間隙を縫って溜池をすくっているが、そろそろ限界。激務は残り一年、体力の維持は可能か。

## 今春には引つ越しパーティー

若松町の住宅地にひとときめだつログハウスが建てられているが、施工主は江口氏。どんだんたまる標本に、泉野と涌波の居では手狭になったとか。涌波は引き払い、泉野は採集用品の置き場として残す予定。

## 風雪に耐えるジョロウグモ

ジョロウグモは、秋に産卵し、その一生を終えるが、松井氏宅の庭では越年し、なおも得物を狙っていた。一月は

穏やかな陽気が続き、このまま春まで生き延びるかと思われたが、二十日の寒波でついに力尽きた。

## 例会の記録

十二月二日(木)城南管工二階にて八時から開催。

県内初記録のカミキリをもつて江崎氏登場。今回ヒゲブトハナをものにした氏は、これまでもヒゲナガヒメリ、トドマツ、アメイロ等、数々の初記録を出している。探せば、まだまだ記録は出る。

その他の話題は、十一月に乱舞するヒメウラボシ、沖縄土産はヤエムラとツمامラサキ、筑波で乱舞するクロコノマ、一冊一万円で自費出版四百冊、ただいまオオトラ七〇幼、エサケルスオークションにオオトラ出品、格調のトラニウス、生の糞虫を食べるラオスのお姉さん、などなど。

参加は、江崎、竹谷、細沼、中西、富沢、松井、井村、指田、西原の九人。

【表紙デザイン…小幡英典】

# 会員の動き・しゃべの動き

乱舞するヒメウラボシを横目に

十一月下旬、昆虫館の富沢氏は展示用の昆虫採集に、八重山を訪れた。注目を集めるヒメウラボシも多かったらしいが、小型種は展示に不向きと全く採集せず。展示用のヤエムラ、ツマムラサキにネットを振った。

いつまで飛ぶかツマグロヒヨウモン

十一月は休日と天気の相性が良く、たくさんツマグロヒヨウモンが観察できたが、十二月に入ると相性が悪くなり、四日はかろうじて曇。この日の観察が、最後の観察になってしまった。

古傷が痛み出した吉村氏

かつてゼフ竿を振り回していた頃、上ばっかり見ているものだから、足元の大穴に氣

付かずスッテンコロリン。足を首をひねったが、若くもあり直ぐに良くなった。あれから二十年、採集行にも差し障りが出るほど痛みだし、意を決して手術。

今年の越冬幼虫はデカイのか

最近、赤丸急上昇の日吉宏朗氏、あっちこちでオオムラサキの幼虫調査をしている。聞くところによると、オオムラサキ幼虫の大きさがまちまちで、中にはゴマダラ大のものまでいるらしい。これも温暖化の影響だろうか。

小松市のトンボとチョウが遺作に

これまで小松市立博物館研究紀要に発表してきた「小松市のトンボとチョウ」が、自費出版の「小松市のトンボ」「小松市のチョウ」の二冊に

まとまった。著者中山佐一郎氏は、小松昆虫界の大黒柱、九十歳のお年ながら、ちよくちよくフィールドに出かけられる現役でしたが、十二月二十二日交通事故で亡くなられました。お元氣だっただけに、残念でなりません。

「アサギマダラ年鑑」発行計画

最近各地で行われるようになったマーキングだが、どこでどれだけ行われているのかわからない。再捕獲記録も総てをまとめたものが無い。そこで、その年の全国の記録を集めた年鑑発行計画が動き出した。

十二月三十日倉ヶ岳で採卵

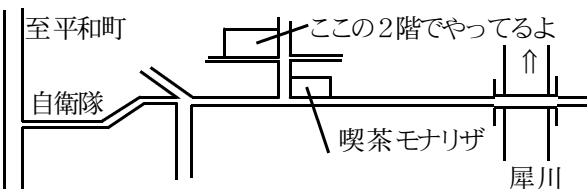
最近とんと採卵ご無沙汰の松井氏だったが、なぜか突然倉ヶ岳。しかも雪中行軍までして。日吉宏朗氏もいっしょだったので、彼が引っ張り出したらしいが、今後もお願ひしたいものである。蝶チームの活性化は松井氏を引っ張り出すことにある。

## 翔 142号

Tobu 2000年2月1日発行  
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>  
金沢市大場町東871-15 松井方  
☎920-3121 ☎076-258-2727  
郵便振替 00750-8-562  
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
TEL参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (142号)

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 日吉芳朗：輪島市におけるアサギマダラの今昔 ..... | 1  |
| 松井正人：1999年アサギマダラ日記 .....    | 4  |
| 久慈一英：ニューヨーク市の蝶 .....        | 9  |
| 富沢 章：マツムシとクツワムシの記録 .....    | 12 |
| 編 集 部：会員の動き・しゃばの動き .....    | 14 |